

熟果生産に適した伏見とうがらしF₁品種の育成

伏見とうがらしの赤熟果を安定出荷するため、既存の伏見とうがらしより収量性を高め、色が鮮やかで辛味が全くなく、ウイルス抵抗性を付与した熟果用F₁品種を育成しています。

府内遺伝資源
(伏見)

×

高カプサンチン
(赤色色素)系統

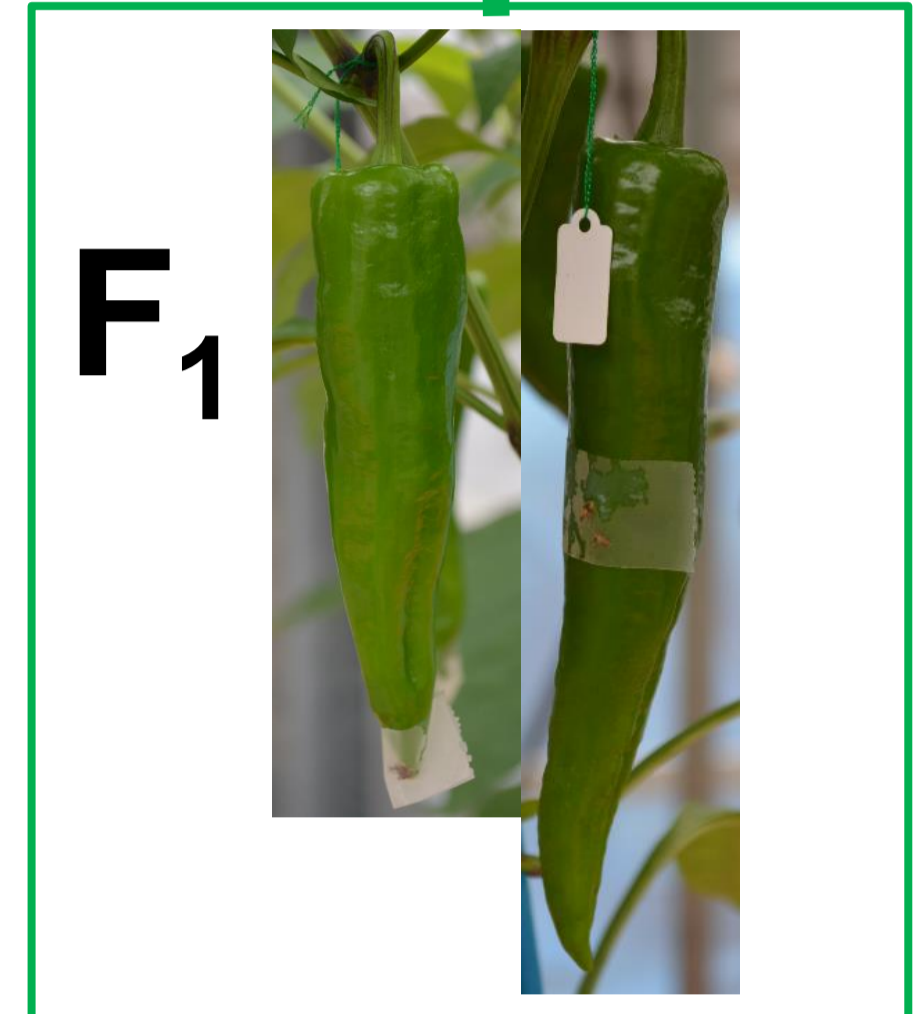


F₁

府内遺伝資源
(伏見)

×

辛味なし
系統



F₁

×

12組み合わせ
の交配後代

新品種(F₁品種)

伏見らしい果型
辛味なし
収量多い
ウイルス抵抗性



果実形質などで選抜

組み合わせ交配で
約200系統のF₁品種
候補を作出

DNAマーカー選抜(辛味、ウイルス抵抗性)

薬培養

倍加半数体
(586系統)

DNAマーカー選抜
(辛味、ウイルス抵抗性)

果実形質などで選抜



F₁品種の親候補
22系統

府内遺伝資源とカプサンチン含量が高い系統および辛味のない系統の交配後代から薬培養により固定系統を作出し、DNAマーカーと果型の選抜によりF₁品種の親候補系統を育成しました。親候補間の組合せ交配を行い、育成したF₁品種候補から有望な系統を選抜します。

伏見らしい果型で収量が多い系統を選抜するとともに、食味や着色の早さ、機能性成分含量、果実水分にも着目して、新品種の育成を進めます。